学校通信

オオタカ

平成 29 年 1 月 10 日発行

知多市立旭北小学校

[発行者] 校長　河 合 康 博

旭北

新年あけまして、おめでとうございます。
旧年中はたいへんお世話になり、ありがとうございました。
本年もよろしくおねがいいたします。

「どうして酉なの？」

今年の干支は、皆さんもご存じのとおり「酉（とり）」です。年賀状にも鳥や鶏の図柄がよく使われています。しかし、どうして「鳥」や「鶏」ではなくて「酉年（とりどし）」なのか不思議ですね。

すでによくご存じの方も多いとは思いますが、今回改めて調べてみたところ、酉だけに限らず、十二支「子、丑、寅、卯、辰、巳、午、未、申、酉、戌、亥」に使われる漢字は、私たちが通常にイメージする漢字とは異なることに気付きます。例えば、昨年の干支は「申（さる）」でしたが、私たちは通常、サルを漢字で書く場合は「猿」と書きますが、干支のときだけ「申」と書きます。トラも「虎」ではなくて「寅」、ウシも「牛」ではなくて「丑」と書きます。このように干支は、通常とは異なる漢字を用います。では、どうしてでしょうか。きっと、理由があるはずです。

調べていくと、干支は本来、中国で「方角や時間」を表すために使われていたもので、一つ一つの文字にはもともと動物とは無関係の意味があるようです。この干支が中国から日本に伝わってきたときに、覚えやすいように、昔の人が文字の形や読み方から、動物の名前を後付けで当てはめたというのが理由のようです。また、「〇年生まれの人はゆったりとしている」などの干支の占いがありますが、これも日本で後から付けられたものであり、本来の中国の十二支とは関係がなさそうです。

ところで、昔の人々にとって、栄養化の高い卵は貴重品でした。その卵を産む鶏は、大切な動物だったことが想像できます。また、空を自由に飛び回ることができる鳥は、飛行機はもちろん、自転車も自動車もなかった時代の人々にとって、もしかすると、すばやく身軽に移動することができる、あこがれの動物だったのかもしれません。

ちなみに、時代劇などで「酉の刻（とりのこく）」というように、干支は時間を表すときにも使われますが、「酉の刻」は、おおむね今の 18 時頃（夕暮れ時）を指します。

さて、旭北小学校には、「オオタカが舞い鳥のさえずりが聞こえる学校」というキャッチフレーズがありますが、ご存知でしょうか。東の昇降口に大きく掲示してありますので、ご来校の折にぜひ見つけてください。

今年が本校の児童にとって、「オオタカ」のように、元気いっぱいに悠々と羽ばたくことができる一年になるよう願っています。

◇ 教員交代のお知らせ

産休・育休中だった長谷川有香先生が、3 学期から復帰となりました。2 学期末までお勤めいただいた川田正子先生を引き継いで、なかよし学級の副担任となりますので、よろしくお願いします。経験豊かな長谷川先生のこれからの活躍が楽しみです。

長谷川有香先生

◇ 学校評価へのご協力、ありがとうございました。

ご多用のところ、２学期後半に実施いたしました学校評価にご協力をいただきまして、ありがとうございました。１校１校に込められた保護者の皆様からの貴重な思いを大切にしながら、今後の学校運営に生かしてまいります。

そこで、今回は最もご意見が大きく分かれた事項について、保護者の皆様に改めて紹介し問いかけたいと思います。それは、学校行事における本校の駐車スペースの問題です。

・「学校行事の際に運動場を駐車場として開放してくれてありがたい」
・「運動場に車を乗り入れるのはやめた方がいい」

これらは、いずれも保護者からいただいたご意見であり、ほぼ同数いただいております。また本校といたしましても、以前から悩んできた問題です。

施設整備の面や児童の教育面・安全面から、全ての行事において、ご来校の際の車はご遠慮いただくようにお伝えはしてきたものの、広大な校区をもつ本校において、保護者の利便性を考えると、全面的な乗り入れ禁止に踏み込めず、迷っているところです。

本校には駐車場を拡張するスペースもなく、車による児童の送迎の問題と合わせ、今後、しっかりと検討していきたいと考えております。

現時点で、すっきりとした回答ができず申し訳ない思いますが、ご理解いただきますようお願いします。

◇ 烏骨鶏（うこっけい）のクロッキーについて

本校では烏骨鶏を１羽飼育しています。名前は「クロッキー」です。動植物委員会が中心となってお世話をしてくれています。一日中「コケコッコー」と大声で鳴くので、「クロッキー」を知らない児童はいないと思います。知多市内で烏を飼育している学校は本校１校だけです。

さて、年末に東山動物園が鳥インフルエンザの発生で閉園となったことは、皆さんもよくご存じのところです。市教育委員会からは、万が一を考え、児童による鳥の飼育は禁止するように指導が入っていました。本校としては、大変つらい決断ではありますが、検討の結果、児童の安全面を第一に考え、このたびクロッキーをお世話してくださる所に引き取ってもらうことといたしました。

（クロッキーは南知多町の内海地区の方にお世話をしていただくこととなりました。）

校長室から

「転換期を迎える学習について」

学習というと、「読み書き、そろばん」と言われるように、本を読んだり文字を書いたりする力や計算をする力を思い浮かべる方が多いかと思います。また、歴史や地理、理科の観察や実験が好きだった方もいることと思います。こうした、「何を知っているか、何ができるかという知識や技能」を身に付けることは学習の基本として大切なことです。

しかし、次期学習指導要領（平成 30 年度から先行実施、32 年度から全面施行）では、これからの高度に発展した社会を生き抜いていくためには、前述の基本的な学習と併せて、「知っていること、できることをどう使うかという、『思考力・判断力・表現力等』」と「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るかという『学びに向かう力や人間性等』」についても同時に身に付けていくことが必要だと示されています。

つまり、学んだ知識や技能を、どう生かすか、どう表現するかについて、学校教育の中で体験したり、社会や世界との関わり方を体感したりすることも必要になってきます。教科書の問題がすらすら解けるようになることだけが学びではなく、その知識や技能をどのように有効に生かしながら、表現するかを学んだり、目の前の課題について、その解決策を自ら模索したりする力も身に付けていくことが求められています。

これまでも学校教育において、生活科や総合的な学習の時間（本校ではライフ）を中心に、学び方について学習してきましたが、他の教科・領域においても、どのように学ぶかというところから、授業づくりをしていく必要がありそうです。

このように今後は、ペーパーテストでは計りにくい力に注目が集まりそうですが、学校はどう対応していくべきか、これから知恵を絞りながら対策を練ってまいります。まずは、自分の目で見て、自分の頭で考えて、自分の言葉で表現できる子どもを育てていくことから始めたいと考えています。そのためには、教師から与えすぎず、子どもが自ら気付く瞬間を待てる授業づくりを大切にしていきたいと考えています。